

福島 naturally 動物

T.M

自然体験1日目、雨が降っていたので最初に天鏡閣に行きました。天鏡閣は明治40年8月、有栖川宮威人親王殿下が東北地方御旅行中に猪苗代湖を巡遊され、風景の美しさを賞されてこの裏磐梯に建設した別荘です。

迎賓館にも行きました。迎賓館には、萱葺きの屋根がありました。



(1日目) 筆者撮影

ー茅葺き屋根の仕組みー

萱がたくさん重なっていて、降った雨が1段また1段と雨粒となって落ちていき、1番下の萱には雨粒が落ちていかないという仕組みです。

森の中では、たくさんの植物や動物の痕跡を見ました。

【植物】

ートリカブトー

トリカブトは、キンポウゲ科トリカブト属の総称です。トリカブトの仲間は日本には約30種類生息しています。花の色は、紫色の他、白、黄色、ピンク色などがあります。多くは多年草で、沢筋などの比較的湿気の多い場所を好みます。

毒性

トリカブトは、比較的有名な有毒植物です。ドクウツギ・ドクセリと並んで日本三大有毒植物の1つとされています。



(1日目) 筆者撮影

主な毒性分はジテルペン系アルカロイドのアコニチンです。

嘔吐・痙攣・呼吸困難・心臓発作を引き起こします。以前は発熱剤や鎮痛剤として使用されてきました。現在も生薬の成分として限定的に使用されています。毒性の強弱に関わら

ず、野草を食べることは非常に危険です。

ーツノハシバミー



(2日目) 筆者撮影

ツノハシバミは、カバノキ科の落葉低木でナガハシバミとも呼ばれています。北海道・本州・四国・九州・朝鮮半島の温帯山地に分布しています。伊豆半島には分布しません。

基部は円形で、先端は尖り、緑は欠刻のある細かい二重鋸歯があります。果実を包む筒状の総苞は緑色で外面に刺毛を密生し、くちばし状に長く伸びた独特の形であることから、ツノハシバミの和名がついたそうです。

堅果は黄褐色に熟したら食用になります。果実をとって、刺毛に気をつけながら総苞を剥いて堅果を取り出し、殻から取り出したナッツを食用にします。時として、9月から10月に熟して、1～4個が集まってつきます。果実は堅果で長さ1～1.5 cmの円錐形です。

食べるときはそのままでも食べることはできますが、茶碗蒸しや煮物、すり潰して和えものやお菓子などの原料として、用いられます。刺毛に触ると1週間くらい痛みが続くそうです。

ーツユクサー

世界中に広く分布する、畑の隅や道端で見かけることの多い雑草です。花卉は3枚あります。

名前の由来

説① 朝咲いた花が、昼しぼむことが朝露を連想させることから、「露草」と名付けられたという説があります。

説② ツユクサは古くは、月草と呼ばれていて、上に書いた説以外に、この「月草」が転じて、ツユクサになったという説もあります。

この他、その特徴的な花の形から、蛍草や帽子草、花の鮮やかな青色から「青花」などの別名があります。

花の利用

花の青い色素は、アントシアニン系の化合物で、着ていても容易に退色するという性質を持っています。昔の人々はこの性質を利用して絵具の代わりに使っていたといえます。

俳句では、露草・月草・蛍草などの名で、秋の季語とされています。

ーツリフネソウー



(1日目) 筆者撮影

ツリフネソウは、東アジアに分布していて、日本では、北海道・四国・九州の低山から山地にかけて分布します。水辺などのやや湿った薄暗い場所に生息します。花期は、夏から秋にかけてです。

花が帆掛け船を釣り下げたような形をしていることや、花器が釣り船に似ていることが、名前の由来と考えられています。

種子が熟すと、ハウセンカなどと同様に、弾けて飛び散るように広がります。

ーサルナシー



(2日目) 筆者撮影

日本・中国・朝鮮などに分布する落葉樹です。サルナシの果実の味は、キウイフルーツそのものであり、これはキウイフルーツの原種が中国南部にあるサルナシの近縁種シナサルナシであることから、似たような味になったともいえます。

ジュース・砂糖漬けなどにも商品化されています。野生動物では、ニホンザルやツキノワグマ・ヒグマなどが好んで食べます。

【昆虫】

ーヤマナメクジー

森に棲む大型のナメクジです。扁平で体側には黒い縦筋があります。原産地は対馬で、本州・四国・九州に分布します。大きなものでは、13～16cmに及ぶものもあります。種類としては、カタツムリの仲間ですが、殻を持たない、体が分厚い、触覚が短いなどの違いがあります。



(1日目) 筆者撮影

ーザトウムシー

非常に足の長いものがあり、豆に針金の足をつけたような独特の姿をしています。長い足で前を探りながら歩く様子から、ザトウムシの名があります。特に、アメリカではあしながおじさんの愛称があります。主として肉食で、虫などを食べますが、死んだ虫を食べることもあります。雑食性ではキノコを食べるものもいます。



ーテンー

テンは単独で生活していて、岩の隙間や樹洞を巣にし、食性は雑食です。テンがそこに糞をしたことから、そこは糞をしたテンのなわばりであるということがわかります。

(1日目) 筆者撮影

【鳥】

ーセキレイー

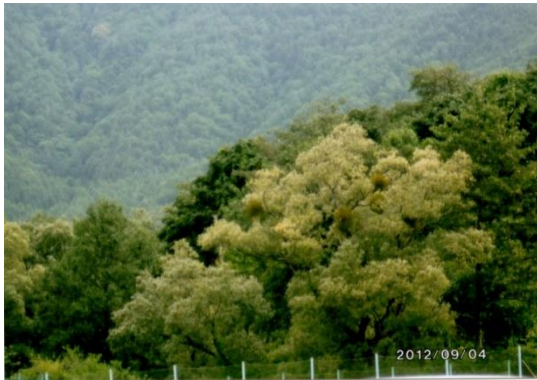
私はバードウォッチングで、セキレイを見ました。セキレイは多くの異名を持っています。日本では普通に見られるセキレイは、セキレイ属のハクセキレイ・セグロセキレイ・キセキレイの3種類がいます。下流に生息するものをハクセキレイ、中流に生息するものをセグロセキレイ、上流に生息するものをキセキレイといいます。主に水辺に住んでいて、長い尾を上下に振る習性があります。

ーカワウー

バードウォッチングでは、カワウも見ることができました。カワウは文字通り「川」に住む「鵜」です。ただし、河口だけではなく、河口付近や浅海域でも普通に見られます。長時間、同じ姿勢を保ち濡れた翼を広げ、小刻みに震わせ翼を乾かす習性を持っています。

食事

餌になるのはほとんど魚類で、捕獲する際には時に1分以上、水深10m近くまで潜水することもあります。また、1日500gの魚を食べるといわれています。



(2日目) 筆者撮影

【動物の痕跡】

—鳥の痕跡—

濃い緑のところは、鳥が住んでいたところの跡。緑の部分には、鳥が食べた木の実の枝がたくさん集まっています。

—熊の痕跡—

熊が木をひっかいた跡



(1日目) 筆者撮影

熊の足跡(畑)



(1日目) 筆者撮影

自然体験学習を通して

今回の自然体験では、たくさんのことを学びました。私は植物について調べていたわけではなかったので、最初はあまり分からなかったけど、実際に見たりしてどんな植物なのかや、どんな性質を持っているのかなどを学ぶことができました。

動物のほうは、主に鳥についてやってきたので、鳥の鳴き声や痕跡などを見られてよかったです。実際に鳥を見ることはあまりできななかったけど、草野先生には自然についても教えていただいたので、よかったです。